

「医療を学ぶ人のための EBM ワークショップ in 愛知」

開催による図書館員の能力開発支援の試み

小林晴子^{1), 2)} 大野圭子^{1), 3)} 柿田憲広^{1), 4)}

¹⁾東海地区医学図書館協議会, ²⁾愛知医科大学医学情報センター (図書館),

³⁾朝日大学図書館, ⁴⁾愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター

EBM ; CASP ; ワークショップ ; 専門教育 ; チーム医療

1 背景・目的

NPO 法人日本医学図書館協会専門職能力開発委員会における専門職能力開発プログラム：資料 3 モデル活動（案）では，医学図書館員に求められる活動として EBM の概念を習得する，医学論文の批判的吟味を行う等が示されており¹⁾，EBM 実践の支援は医学図書館員の重要な役割の一つといえる。全国でも EBM ワークショップが開催されており，東海地区医学図書館協議会においてもその必要性から，平成 25 年度に CASP(Critical Appraisal Skills Program)のチェックシートと手法を用いた第 1 回 EBM ワークショップを開催した。医療従事者，学生とともに学ぶことをとおして，図書館員の能力開発支援の在り方や今後の展望，課題について考察する。

2 実施内容

(1)平成 25 年度 第 1 回ワークショップ

① 目的の設定：EBM の概念・医療情報の質を見極めるための知識を身に付ける，ランダム化比較試験 (RCT) の吟味の手法をワークショップ形式で経験しながら学ぶ，職種を超えた人的ネットワークを広げる。

② 講師，チューター等医療従事者との協働によるプログラムの構築

③ アンケートの集計，フィードバックのための冊子作成・配布

(2)平成 26 年度 第 2 回ワークショップ

① 目的の再設定：JMLA 専門職能力 開発プログラムモデル活動(案) 研究支援「診療ガイドラインの作成に参画：システムティックレビューを行う」図書館員の育成を支援する，を追加

② 学生コーディネータの参画

3 考察

(1)6 名程度からなるスモールグループによる学習形式は，参加者の満足度や理解度の高さを望むことができる。

(2)多職種と学ぶことで相互にモチベーションや学習意欲の向上を図ることができる。

4 課題

(1) 医療従事者，学生の参加者確保 (2) ワークショップの定着，継続的な開催

(3) 医療現場，図書館業務へのフィードバック

(4) 医療従事者，学生，図書館の相互理解と，あわせて図書館機能についての発信

5 文献 1) 日本医学図書館協会 [internet].

<http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/pro/index.html> [accessed 2014-05-26]